



学校だより

10月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



温かい環境の中で育む心

校長 西山 久美子

全校児童がそろっての学校再開が決まりました。保護者の皆様、地域の皆様、この1か月、分散登校中の子どもたちを様々な場面で支えていただきありがとうございました。学級を半分に分けての学校生活が長期に及び、改めて全員が顔を合わせることのありがたさを強く感じた日々でした。手洗いの徹底、給食前の消毒、密を避けての交流、1日おきの家庭学習・・・自分のために、そして周りの人のために、がまんや気遣いの連続だった子どもたちに「よくがんばりました。」と心から言葉をかけたいと思います。緊急事態宣言は解除となりましたが、学校では引き続き感染症対策を徹底し、安全な学校生活を送れるよう取り組んでまいります。ご家庭でもお子様の健康観察にご協力をお願いいたします。



ところで、分散登校中の出来事を紹介します。ある日、休み時間から戻ってきた中学年の児童が「帽子が落ちていました。」と職員室に届けに来ました。受け取ろうと思ったとき低学年の児童が「ぼくの帽子！」と遠くからやってきます。そこで無事に持ち主のもとに戻ったというほんの1～2分の出来事ですが、私はとても清々しい気持ちになりました。それは帽子を受け取った子の「ありがとう」の言葉、届けてくれた子のほっとした表情が見られたからです。何気ない日常の出来事ではありますが、ありがとう～どういたしましての心が表れている光景にその日一日は、幸せな気持ちで過ごせました。また別のある日、(9月は登校班での登校ではなかったの) 近くの1年生と一緒に登校していた6年生は1年生を内側に歩かせ、歩く速度も合わせていました。さりげない行動に心が温かくなりました。

上星川小には、そんなすてきな場面がたくさんあります。私たちは「温かい心で」と幾度となく言葉にしています。しかし無意識のうちに相手を想う行動がとれる子どもたち。それは、日々の学校生活やご家庭の中で、心が豊かに育まれている証でもあるのだと思いました。温かい言葉と愛情あふれる環境が、子どもたちの思いやりの心を育てているのです。だからこそ、子どもたちの身近にいる私たち大人が、意識して温かく安心できる環境づくりに努めなければと強く思っています。

いよいよ10月4日からは一斉登校です。子どもたちにはうれしさと同時に、久しぶりの一斉学習に不安もあるかもしれません。学校ではこれまで以上に子どもたちの心に丁寧に寄り添いながら「一人ひとりを大切に」指導してまいります。お子様の様子でご心配なことがありましたら、遠慮なく担任や児童支援専任までご相談ください。

